

会報編集委員

委員長	山内 亨 (14回生)	茂木 伸太郎 (14回生)
委員	関 文隆 (10回生)	濱田 弘子 (14回生)
	黒瀬 忠生 (11回生)	今浦 恵子 (14回生)
	小杉 義信 (11回生)	長谷川万里子 (14回生)
	河村 恵子 (12回生)	土田 善則 (15回生)
	宮田 雄幸 (12回生)	牧野 孝夫 (15回生)
	市瀬 勝信 (13回生)	初宿 信子 (15回生)
	浜野 輝夫 (13回生)	市川 加代子 (15回生)
	背戸 民恵 (13回生)	鈴木 茂美 (15回生)
	遠藤 きみ (13回生)	甲神 晶 (16回生)
	村瀬 共栄 (13回生)	池内 和彦 (16回生)
	福島 成二 (14回生)	
	桜岡 元 (14回生)	



篁会報 2005年(平成17年)16号

発行日 2005年4月24日

発行 篁会

東京府立第二高等女学校同窓会

東京都立竹早高等学校同窓会

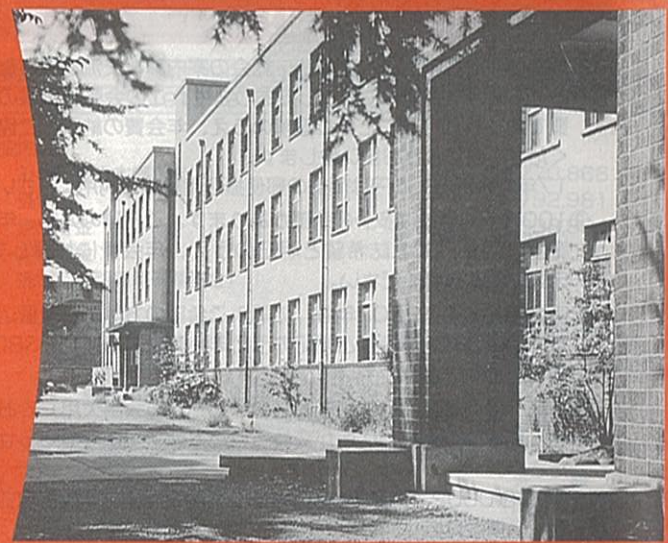
〒112-0002

東京都文京区小石川4-2-1

東京都立竹早高等学校内

編集 篁会 会報編集委員会

印刷 株式会社博秀工芸



竹 早

TAKAMURA 会報
2005/No.16

特集「竹早今昔物語」……2~5

- 講演会・講師紹介 ……………1
- 校長挨拶、篁会会長挨拶 ……………6
- なつかしの先生 ……………7
- 45周年を迎える竹早山荘 ……………8・9
- 学校の活動報告 ……………10・11
- 関西・湘南篁会だより ……………12・13
- 竹早エコ ……………14~16
- 篁基金・ホームページ・学校見学 ……17
- 報告 ……………18~20
- お知らせ・訃報・編集後記 ……………21

東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会

日時

平成17年 6月12日(日)

受付開始 10:00

総会 10:30~11:00

講演 11:00~12:00

休憩 12:00~12:10

懇親会 12:10~14:30

会場

東京プリンスホテル

総会・講演会

懇親会

2階

「プロビデンスホール」

会費

8,000円

(平成14~16年卒は2,000円)
平成17年卒は無料

■ご出席の方は、同封の葉書で5月21日
までにお申し込みください。

■会費は、当日受付でお支払い
ください。

交通案内



東京プリンスホテル

〒105-8560東京都港区芝公園3-3-1
TEL:03-3432-1111



- 車：東京駅から10分
- JR線、東京モルレル：
浜松町駅から徒歩10分
- 都営地下鉄三田線：
御成門駅から徒歩1分
- 都営地下鉄浅草線：
大門駅から徒歩7分
- 都営地下鉄大江戸線：
大門駅から徒歩7分
- 地下鉄日比谷線：
神谷町駅から徒歩10分

懇親会は、同期会・クラス会・クラブ
OB会の場としても、ご活用いただけます。
右記にご連絡ください。配席を準備します。

お問い合わせ先

土田善則 03-5936-9560
初宿信子 048-201-5047

平成17年度

篁会総会

のご案内

■今回 幹事

高校15回生 (昭和38年卒業)
高校26回生 (昭和49年卒業)
高校36回生 (昭和59年卒業)
高校56回生 (平成16年卒業)

■次回 幹事

高校16回生 (昭和39年卒業)
高校27回生 (昭和50年卒業)
高校37回生 (昭和60年卒業)
高校57回生 (平成17年卒業)

〈総会・講演会講師紹介〉

「まだ平家物語やってるの？」

—こだわりのライフワーク
平家物語研究の面白さ—



國學院大学教授
松尾葦江さん
高校15回生(昭和38年卒)

～風にそよぐ葦でなく堂々たる葦～

「高校時代は暗かったのよ」講演のお願いに大学へ
伺った折の第一声がこれでした。優等生の松尾さん
からのこの言葉に一同思わず緊張がとけました。

私達15回生が入学したのは昭和35年「60年安保の年」
です。松尾さんは生徒会や社会への問題意識も私達
のレベルを超えたものがありました。生徒大会で全
校生徒の前で堂々と上級生に質問をしていた様子に
「同期生にすごい人がいるものだな」と、感じ入って
いました。古文も当時からよく勉強され、大学に伺
った折にも「竹早での古文の授業はよく身につけ、
後々にも役立ちました」と、話されていました。

～志と技～

竹早卒業後お茶の水女子大学国文科から、東京大
学大学院を経て、国文学研究の道を歩まれ、現在も
中世日本文学研究に邁進されています。

NHK教育テレビの講座での 歯切れよく、それ
で決して杓子定規でなく、視聴者に探求心を起こさ
せる講義を聞いて、懐かしさと誇らしさを感じられ
た同期生も多くいらしたことでしょう。

大学のホームページに掲載の次のひとは国文学
研究のみならず、人生の道しるべのひとつとして
もとても参考になるのではないのでしょうか。

「ひとがひとであるために、志が必要だと考えて
います。他人からほめられたり、世間に認められ
たりすることは別に。しかし、志だけでは駄目で、
それを実現するためには技が必要です。切れ味の
いい技を身につけるのは、面白おかしい毎日では
ありませんが、案外これが楽しいのです。文学(科
学としての)は職人芸です。志を見失わず、技を磨
きたいと思います。・・・」

10代の松尾さんを、還暦を迎えた現在までひきつ
けてきた「平家物語」の魅力とはどのようなもの
なのでしょう。中世を代表する古典「平家物語」は
現代の私達に何を語りかけてくれるのでしょうか。
講演がとても楽しみです。

主な著書

- 『平家物語研究』
明治書院 1985年
- 『軍記物語論』
若草書房 1996年
- 『日本の散文—古典編03』
放送大学教育振興会 共著 2003年
- 『平家物語を歩く』
JTBパブリッシング 監修 2004年
- 『校訂延慶本平家物語』(五)、(十)
汲古書院 2004、2005年

特集「竹早今昔物語」

何か事にあたる時、その歴史を知らなければ今を見る眼も曇りがちになるでしょうし、未来を語ることもできないでしょう。同窓の皆さんの活躍を通して、竹早百余年の移り変わりや竹早で何を学びそれが今にどう生かされているかを、15回生を中心にそれ以前以後と読みくらべていただけるよう特集しました。

高女の頃

運命の日 昭和20年5月25日東京空襲

—母校を空襲から守る—

清水愛子 高女43回生(昭和18年卒)

焼夷弾が裏庭に弾け、弟妹に当座の食料・毛布等を背負わせて予め手筈していた通り、焼け出された後の必需品を防空壕に投げ込み、池には鍋・釜・茶碗・皿と手当り次第沈める。家は燃え始め一刻の猶予もならない。

共同印刷の抜け道は既に火が吹き出して通れない。春日通りへ出ると小日向台はモクモクと黒煙が上がっている。伝通院方面に走るが春日町から火が這い上がっている。急いで大塚仲町へと思い走るがお茶の水大学が燃えていて窪町を抜けられない。とうとう逃げ場を失ってしまった。こうなったら目の前の母校が頼りだ。母校はどうかや焼夷弾の網の目を逃れた様だ。

母校と運命を共にしようと思いを決めた。西門をよじ登ると何と塀の外側に積み上げられた材木が燃え上がり化学室の窓を舐めている。この炎の下を潜らなければ校舎に入れぬ。そしてこの火をくい止めなければ化学室に火が入り爆発するという最悪の状況だ。

弟妹を連れ戻し水を頭から掛けて炎の下を潜らせる。燃える寄宿舎を消火中の寄宿生を呼び寄せ、必死のバケツリレーで消火して何とか校舎に火が入らずに済んだ。母校を救ったご褒美にと入らせて頂いた3階の作法室(洋室)



に弟達を休ませた。漸く空襲警報も解除されたので屋上に上がって見ると、見渡す限り火の海で真っ赤に東京が燃えている。あの広い植物園も火が入った様だ。本当に母校が助かってよかったと胸を撫で下ろした。

翌朝の体育館の悲惨な被災者の救護に始まり、隣家との境も分からなくなっている焼け野原の我が家を掘り起こす。焼けトタンと焼け木の小屋を作って夜露を凌ぎ、電車路にゴロゴロ転がっている遺体を跨いで大蔵省に出勤。終戦の悔しさ等とは言ってられない生きる為の日々。そんな中でも大好きなバレエ部の復活に四苦八苦。戦争で発揮出来た竹早魂を今も誇りに思っている。

高女から高校へ

焼け跡で編んだ絆

富安光子 高女49回生(昭和24年卒)

私たちが受験競争に打ち勝って、憧れの府立第二高等女学校に入学した昭和19年、日本軍は既に敗戦の色を深めていた。通学にも空襲に備えて防空頭巾は手放せなかった。級友は一人また二人と疎開先へ散っていく。そんな様子を「春筍のうす衣・・・」と才気煥発な友が作詞作曲した歌を、クラスのテーマソングのようにみんなで唄った。薄い筍の皮を一枚一枚剥けば芯が細っていく。竹早の竹、「筍結びと呼ばれたネクタイ」を思わせて鋭い発想だった、と今にして思う。疎開先では、いじめられた人、標準語ができると大切にされた人そして居残って軍の下請け仕事で勤労奉仕をした人・・・明日はともかく、「今は生きている」という思いを抱きしめながらの日々であった。



その翌年、戦いは終わった。そんな思いを分け合った仲だけに、戦後のクラスの団結には言い知れぬ思いが込められていたようだ。「理不尽」だと思ふことには声をあげて、PTA刷新の原動力になった。教え方が分からない教師に対しては、一致団結して白紙同盟を執行した。戦後流行し始めた社交ダンスも屋上や被服室に集合して熱中、ドアの内側に机や椅子でバリケードを築いて先生の侵入を防いだりした。今なら大目玉であろうこんなやんちゃな行動が、一度も罰せられなかったのは、先生がたも激動の中を生き抜き、青春を謳歌しようとする私たちをいとおしんで許してくださったのだと思う。貧しくてもわが人生の楽しく爽快な日々であった。多感な日々を編み上げた絆は強く、それぞれの人生を歩み、70歳を越えた今もクラス会には全国から20~30名集まる。

昭和30年代

医学と教育の接点を求めて

林 万里 高校15回生(昭和38年卒)

中学2年の時、両親と東北へ行った帰りの列車の中で元気な集団といっしょになった。それは小石川高校生で、どうやら修学旅行の帰途の一団だということが分かった。和気あいあいとして楽しそうな姿を見て小石川高校に行きたいと思った。しかし、担任から女の子は竹早だと反対されて、素直に従った。その選択は正しかったと今は思うが、私の高校生活はそれほど明るくはなかった。テレビに夢中になり、授業中居眠りすることを覚えてしまったし、学業や文学に燃えることもなく、今考えともったいない青春だった。楽しかった思い出は友達との語り合い、英語劇を練習したこと、政治に目覚めたことか。ちょうど安保闘争の真最中で、浅沼さんが殺されてショックを受けた。正義感から世の中の出来事を知りたくて、いろいろ読んだり、先輩に誘われて集会にも行ってみた。しかし、何か空虚な殺伐とした



雰囲気を感じ、その集団とは関わらなかった。

私が医学部を受験したいといった時、担任からは女の子はお茶の水の家政科が一番いいと反対された。しかし、中学の時のように素直にはなれず、自分の気持ちを貫いた。それだけ成長していたということか？医学部を卒業した時点で小児科を選んだが、医学と教育との接点の仕事がしたいと考え、障害を持った子どもたちとともに歩む道を選んだ。専門は脳性運動障害の早期診断と治療ということで、ボイタ法をしている。脳性まひも早期から治療できれば、障害を軽減できると考えて頑張ってきたが、今は、脳性まひ者が二次障害で苦しんでいる現状を改善させるために、やらなければいけないことがあると考えている。採算のあわない仕事なので開業を考えるわけにはいかないが、定年をあと数年後にひかえ、何か工夫しなければと自分の使命を感じているこの頃である。

(横浜市総合リハビリテーションセンター神経小児科医)

竹早時代を想う

倉石義郎 高校15回生（昭和38年卒）

竹早では入学してすぐ、創部間もない吹奏楽部に入部しました。音を出せるようになることから始めて秋の文化祭には演奏が出来るようにと、毎日熱心に練習したものです。昨年、現役の方が大昔の部員を忘れずに連絡をくれました。感謝の気持ちで一杯です。

私達は戦争の最後の一年に生まれ、親世代はどん底からの困難な戦後復興活動と同時に、私達を育て教育してくれました。周囲にまだ戦争の悲惨な跡が残る環境の中、親達の苦労や平和の尊さが身にしみて分かるので、皆真面目に学業に励んだものです。憲法や教育基本法の文章の美しさとその理想に感動し、民主的で平和な日本を願い、国会周辺へたびたび意思表示に出かけたのもこの時代でした。

航空雑誌で操縦室の写真を見る機会があり、多くの計器やライト、スイッチ類に囲まれた操縦席の様子に、「この精巧で複雑な機械装置を自由自在に操れるようになって、大空のさまざまな気象や自然に触れてみたい」と望み、そのための方法を調べ、準備を始めたのもこの時代でした。その後紆余曲折もあって、やっと最初の足掛かりとなる副操縦士に発令されたのは卒業9年後、更に経験を積み機長資格を獲得するまでにはもう13年を要しました。昼は眼下に季節により風情を変える海、山、河など、夜は頭上に無数の星、時にはオーロラや流星など、自然の美しさは期待以上でしたが、台風、吹雪、乱気流など厳しさもまた予期以上のものでした。大空の素晴らしさに恵まれ厳しさに鍛えられて30余年、この3月に定年・現役引退をしました。千里の道も一歩からのその第一歩を踏み出した竹早時代を想うと感慨無量です。



わがブラバンファンファーレ

板東尚武 高校13回生（昭和36年卒）

昨年3月末、練馬文化センターのホールに金管楽器の華やかなファンファーレが響き渡った。「第16回竹早高校吹奏楽部の定期演奏会」の開幕である。47年前、竹早に入学した頃が鮮やかに蘇ってきた。中学時代から全国吹奏楽コンクール出場を夢みて必死に練習を積んできたものの、竹早には吹奏楽部が無かった。そこで、合唱中心の音楽部を率いる塩崎佳子先生に私と浜野君とで創部をお願いした。先生は「予算案を提出しなさい。校長に相談しましょう」と優しく応じてくれた。私たちの要望は受け入れられ、15万円の予算で、新品の楽器が納入された。だが、部員が足りず、勧誘に駆け回ったことも忘れられない。当時、カラヤンやアートプレーキーが相次いで初来日し、その熱演は、日本の音楽ファンを感動の渦に巻き込んだ。わが部も、芸大出身の西村先生に指導を仰ぎ、勢い



盛んに練習に励んだものだ。時には、隣室の美術部や補習授業の生徒からうるさがられ、天国教室（3階プレハブ教室）に移動し遠慮がちに吹いたこともあった。その成果は、昭和34年（1959）お茶大グラウンドを借りての運動会、秋の文化祭で披露するに至った。曲は「双頭の鷲の旗の下に」「波濤を越えて」「海兵隊」等、戦後の影響がここにもまだ色濃く残っていた。最近、映画やTVで学生吹奏楽が脚光を浴びているが、演奏曲は、クラシックやポピュラーの人気曲が主流を占めている。これも時代を反映しているせいであろう。夢多き青春時代に吹奏楽と出会ったことで、プロの音楽家になった友人も何人かいる。私自身としては、音楽に対する憧れは尽きることなく、昨年退職するまでの10年間は、仕事場（美術館）で、50回近くのギャラリーコンサートを企画開催してきた。これまでも、今も、これからも、“音を見る、時を聴く”である。

ある時、生徒から「先生ってスゴクナイ（↑）、ヤンボコだもんね」と言われました。「ヤンボコ・・・」としばらく考えたあげく、少し前に放映された「ヤンキー母校に帰る」というドラマの主人公の「卒業生が母校の教壇に立つ」という設定が私の境遇と同じだということでした。授業の準備や日々の校務に追われてそれまでは深く考えることはなかったのですが、その一言で「母校の教壇に立っている」ということを意識するようになりました。経験も技術もありませんが、実際に竹早で生徒として3年間生活をしたという実体験は何よりの財産です。いつまでもそれだけに頼るわけにはいきませんが、教員である前に生徒たちの先輩であるという立場を活かしてたくさんのお話を伝えていきたい。そして「自主自律」を生徒ともに実践し共に成長していきたい、そう思っています。



小野先生と美術部

建島朔弥 高校15回生（昭和38年卒）

昭和36年、2年の夏休み前、現在60才を迎えて未だに付き合いのある仲間が美術部へ入った。高木、鈴木、奥村、永松である。去年亡くなられた小野先生の、扱いにくい面々への指導が始まった。最初に先生は言い切った。「描くことです。同じものを何回も！」何の変哲もない白一色の薄皿が置かれた。それを描けと言う。斜めから見た楕円のタテ・ヨコの寸法比、殆んど影の無い全光白色の物体をどれだけ黒線で描き込めるかの訓練じみた作業が続いた。石膏像に取りかかったのはその後のことである。高木は正義漢である。石膏像をロープで首吊り状態にして放置したような悪ふざけには与しなかった。先生が「ダーレダこんなことをしたのは！」と怒鳴った時、高木は黙っていたが、明らかに怒っていた。鈴木はメデイチ像をマニアックに描き続け、先生が「うまいな鈴木君は」



と絶句するほどだった。奥村はデザイナーを目指し、律儀に、硬質で透明感のある鉛筆淡彩に没頭し、頭の良かった永松は何やらブツブツ言いながら描いたり、読んだり、吸ったり、飲んだりしていた。先生のアトリエ兼準備室は、浪曲と油絵の具の臭いとタバコの煙でいっぱいだった。荒々しい勢いのある厚塗りのタッチで描きながらこう言った。「私はデッサンがうますぎたんです」かなり小柄にしたリチャード・ウィッドマークばりに左右のデッサンが傾いたままの銜え煙草の苦笑いがそこにはあった。鈴木はその表情に取り付かれ、ウィッドマークに似てるだろうと皆に同意を求めたが、本当のところ誰もそうは思っていなかった。

受験、浪人、美大入学、われわれは小野先生のもとを離れた。高木は建築家になり、奥村はデザイナーとして鹿島建設に入社、鈴木は現在僧侶兼宗教関係ミステリーの著名な翻訳家となり、永松は彫刻家となった。私は日本大学芸術学部で彫刻を教えている。

そして、今

竹早高校5年生—母校の教壇に立って—

—英語科—平川 悟 高校52回生（平成12年卒）

この4月で5回目の春を竹早で迎えました。はじめの3年は生徒として、その後の2年は教員として。5年前に卒業して以来竹早とは縁がなかったので、採用の電話はまさに青天の霹靂。がちがちに緊張した面接を経て着任するまではあっという間で、気がついたらスーツ姿で通学路を通勤する生活が始まりました。

当初は右も左もわからず緊張の連続で思い出のつまった居心地の良い場所にいるはずなのに落ち着かない日々が続きました。校舎も窓から見える景色も変わっていないのに、教室ではなく職員室に座り、先生と呼ばれる・・・今竹早にすることに違和感さえ覚えました。学び舎が職場に、教えを受けた先生が同僚になるということなるとも稀有な体験で、「なぜ、今竹早にいるのだろうか？」という不思議な気分になることもしばしばありました。

ある時、生徒から「先生ってスゴクナイ（↑）、ヤンボコだもんね」と言われました。「ヤンボコ・・・」としばらく考えたあげく、少し前に放映された「ヤンキー母校に帰る」というドラマの主人公の「卒業生が母校の教壇に立つ」という設定が私の境遇と同じだということでした。授業の準備や日々の校務に追われてそれまでは深く考えることはなかったのですが、その一言で「母校の教壇に立っている」ということを意識するようになりました。経験も技術もありませんが、実際に竹早で生徒として3年間生活をしたという実体験は何よりの財産です。いつまでもそれだけに頼るわけにはいきませんが、教員である前に生徒たちの先輩であるという立場を活かしてたくさんのお話を伝えていきたい。そして「自主自律」を生徒ともに実践し共に成長していきたい、そう思っています。



「自主自律、教養教育」の竹早

竹早高校校長 甲田充彦

やわらかな春の日差しが、久しぶりに剪定をしてすっきりとしたヒマラヤスギにあたっています。傍らに凜としたたずむ創立百周年記念モニュメント「夢の風」。紺青の大海原に向かって調べを奏でている少女も輝いています。後輩たちは先輩方の足跡を踏みしめ伝統を感じながら元気に通っています。

簗会の皆様には日頃から母校の教育に対しまして温かいご支援、ご協力を賜り厚く感謝いたします。

竹早の現状として、礼儀正しく努力型の生徒が多いが社会問題に関する知識や論理的思考力に欠け、問題相互の関連を俯瞰してみることが苦手。したがって英語、国語ともに論説文が弱い。学校行事や部活でみられる自主性は素晴らしいが、学習面においては受身的な生徒が目立ち自律的な学習が身につけていないなどが課題となっています。16年度においては、「自主自律の精神を育てつつ確かな学力を伸ばす学習指導の工夫」を年間テーマに具体的に取り組んできました。新カリキュラムで育ててきた生徒の変化に対応することや大学入試の変化に対応した教育プログラムを実践しております。

お蔭様で本年も中学生の第一志望校調査では変わらず高い倍率を示し、大きく変動する他校を尻目に人気校の一角を担っております。大きな変化は、これまで40%前後だった他学校区率が50%を超えたことにあります。旧四学区以外のより広範な地域から竹早に入学してきます。今後とも皆様の一層のご支援をいただき、教養教育の竹早、自主自律の竹早、礼節を重んずる竹早を堅持し、全都に鳴り響く竹早となるよう教職員一同努力して参りたいと思います。

簗会の皆様の益々のご健勝、ご活躍を祈念いたします。



「命を大切に」

簗会会長 星野昌子 高校2回生(昭和25年卒)

昨秋、山形県の三つの保育園から「命を大切に」というテーマで講演依頼が入りました。一番大きい保育園は園児が120人、左沢(あてらざわ)近辺の三箇所を回るという企画です。奈良県で子供の誘拐・殺害事件が起きた後のことでした。講演には慣れていますが、3-4歳の子供たちの興味を引き付けておくことができるだろうかと思いつきながら、すでにかなり寒くなっていた最上川のほとりに出かけました。

5歳の男の子カンプーンが、ポルト軍に追われ、プノンペンから逃げる途中で母親と離れ離れになり、国境を越えてタイの難民キャンプにたどり着くまでの逃避行を、身振り手振りを交えて語りました。なんと、子供たちは静かに話に聞き入ってくれたのです。無人の農家に取り残された牛の乳房から、彼が空腹のあまり、夜陰に乗じてミルクを飲む場面では、「牛は怒ると蹴飛ばすよ、気をつけて!」と元気な声が飛び交いました。

話が終わって、先生が「困っている人がいたら、どうする?」「助ける」、「お金がなかったらどうする?」「自分の食べ物や洋服を分けてあげる」などの言葉に元気づけられたのですが、一人が言った言葉、「お金が無かったら、死んだ人のお金を遣えば良いじゃないか」の真意が理解できずに戸惑いました。先生の説明によると、「その子の父親は自衛隊員で、現在イラクに駐留している、万一の場合の政府保証金の一億円が、周囲の大人たちの話題になっているのでしょう」との事でした。「お父さんは生きて帰れるのだろうか・・・」4歳の子供にとってそれは重すぎる思い、私たち大人に「命の大切さ」を教える資格があるのでしょうか。「垣根の、垣根の曲がり角・・・焚き火だ、焚き火だ、落ち葉焚き・・・」はじけるような歌声を背に、沈んだ心を抱えて私は帰途につきました。

地震、津波、戦争などで多くの人命が失われた2004年が過ぎ去り、今年は内外ともに平和な年であって欲しいと願うばかりです。会員の皆様のご健勝を祈ります。

なつかしの先生

織戸 さなへ先生(旧姓 小宮山)

—数学—

「乙酉」



8月敗戦、9月女高師を卒業して京都府立第一高女の先生になったのが乙酉の年でした。ここが出発点でした。間もなく付与された婦人参政権に象徴される数々の改革に、生徒は戸惑いながらも、水を得た魚のように活発でした。やがて学制改革が行われ、新制中学、新制高校が出来ました。

昭和23年に竹早に着任したときは、東京都立第二女子新制高校でした。25年に竹早高等学校になったと思います。社会も学校も模索の時代。1、2、3年生混在の縦割りのホームルームを作ったり、授業も、学年の区別のない講座を設けました。男子も入学するようになり、活気が漲り、生徒は学業ばかりでなくクラブ活動にも力を入れました。練習場所に苦勞した茶道クラブは心に残っています。

経済成長期になると大学進学者が急増しましたので、徹底した受験指導に力を入れたことも印象深いことでした。学校群制度が学校・生徒をゆらしました。それに引き続いての学校紛争、意識改革と、先生と生徒はいろいろ話し合いましたが、一致点を見つけることは困難でした。時間切れのような思いで、今でも心がうずいて居ります。46年に都立豊島高校に転任致しました。

豊島高校で定年を迎え、引き続き講師を十年間しました。その後今日まで家で高校生と勉強しています。再び乙酉を迎え、60年間の高校生との関りを顧みて、若い活力を存分に受けた「幸」をしみじみと感じております。

健康の相談にのって貰う人、盆・正月にご夫婦で来てくれる人、食事を共に楽しむ人、書道と一緒に勉強している人、いつも展示会のご案内を送って下さる書道家…竹早の卒業生の支えを得ながら82歳の私は独居ながら元気澆刺と過ごしています。

三輪 主彦先生

(1994年～2001年在職 地学科)

マングローブの森



竹早を去ってから4年、教員生活を終えた私は今マングローブ林再生を行うNGOに加わり、ミャンマーに行き来している。ミャンマーのマングローブ林はエビ養殖池、水田、リゾート地に変わり、残った木々も首都ヤンゴンの燃料用に使われた。水田もエビ池も数年で強酸性の土に変わるため、放棄され、木も生えない荒地に変わっている。もともと海水に浸されたマングローブの森は魚介類の宝庫だった。日本でもよい漁場を作るために漁民が山に木を植えている。森と海は一体なのだ。マングローブ林の喪失は海陸をあわせた生態系の破壊そのものなのだ。

荒れ果てたエヤワディー(イラワジ)河口域を15年前から日本のACTMANGが現地NGOと協力して、森林の再生を試みている。テレビ、新聞では日本の子どもたちの植林風景が話題になるが、実際は現地の人たちが作業する。彼らがマングローブ林の重要性、それによって生活が向上することを理解しなければいくら資金をつぎ込んでも森の再生はない。教員の最大の仕事は生徒をその気にさせることだった。その経験がいまここで生きている。

12月26日、朝食の最中、ユラリユラリとマングローブ森の地面が揺れた。とっさに津波を予測し、森に逃げ込む準備をしたが、我々の所に大波は来なかった。電気も電話もない場所なので何の情報もなく、2日後にヤンゴンに戻って、スマトラ沖の大地震だということがわかった。外海に面したマングローブのない村では被害が出た。我々のいた所はマングローブ林が波を和らげてくれたのだ。私は、地元の人が信じているマングローブの精霊(ナツ)が守ってくれたと今でも信じている。

触れ合い・憩い・癒しの自然空間

「45周年を祝う竹早山荘」

竹早山荘を利用しての合宿

写真部顧問 黒田楯彦

写真部では夏期合宿で長年竹早山荘（八ヶ岳寮）を利用させていただいています。清里は自然が多く、写真撮影の対象となる好材料が豊富にあります。

樹木、花、草、野菜、昆虫、動物、山（八ヶ岳）、雲などです。



午前中は山荘内で写真の撮り方の勉強をしたり、山荘近辺を自由に散歩するゆったりとした時を過ごします。午後は足を伸ばしてカメラ持参で行動開始です。

1日目は清泉寮まで歩いて行きます。途中牧場で牛や馬などに会えます。キープファームショップのところで家族連れの子どもの無邪気な笑顔にも会えます。

歩道では野の草花だけでなく、トマト、キュウリ、トウキビなどの野菜類も興味を持った新鮮な眼で観賞することができます。

2日目は「宮詞の滝」に行き、そこから川路に沿って清里の駅近くの「千が滝」まで行きます。大きく力強い滝を撮影した後、その川原で部員たちは靴を脱ぎ、裸足になって冷たい川の中に足を踏み入れ、しばし楽しそうに遊んでいます。こうして感動をカメラに収めながら部員たちは都会にいた時の忙しい日常生活から解放されて自然の中でゆっくりと時を過ごします。

都会を離れ天体観測

天文部顧問 鈴木将志

「あっ、流れ星」

「わたしも見てたよ！」

「え～、また見逃しちゃったよ」

東京の明るい夜空ではなかなか見つけることのできない流星も、清里のきれいな夜空なら、1時間も眺めていれば、いくつかの流星を見つけることができる。

天文部の活動の中心は天体観測ということになるが、東京では人工の明かりが多く明るい星しか見ることができないことや、一晚中学校に残って観測することが困難なことから、夏に竹早山荘をお借りして行う合宿は、貴重な天体観測の機会である。

天文部の合宿では夜間の観測が中心で昼夜逆転の活動となるために、合宿施設を探すのも難しい面もあるが、竹早山荘のおかげでその苦勞から解放されている。また、いろいろ便宜も図っていただけており、感謝している。

竹早山荘での合宿は、部員にとっても思い出深いものがあるようで、卒業生の中には、天体観測のサークルをつくり時々竹早山荘におじゃましているグループもあるようだ。

最近の悩みは部員不足。科学関係のクラブに所属する生徒が減少傾向にあるが、天文部もその分に漏れず、合宿が実施できるかどうかぎりぎりのラインである。また今年も竹早山荘を訪問できるよう、新入生の部員勧誘の作戦を練っているところである。



森の手入れは「ヘイヘイホー！」

高校11回生（昭和34年卒） 小杉義信

「こりゃあ緑の監獄だぁ」2002年の夏に訪れた竹早山荘はそんな印象でした。2階は窓を開けると眼前まで緑の葉がせまっています。昔見たあの赤岳は全く見る事が出来ません。雪や雷で折れた無残なアカマツ、屋根を覆うモミ、シラカバ、下草の上に散乱する枯れ枝などです。40年もたてば牧場跡もうっそうたる森になる、当然といえば当然。時間と自然の力を感じないわけにはいきませんでした。

「しかしもう少し空間の広がり欲しい！ここを訪れる人たちに快適な森がほしい。」

この森の手入れをすることを12回生の宮田氏に話してみると「いや実は、私も植物や山や自然が大好きで他所でその様な活動をしているくらいで大変興味がありますよ」と心強い返事。岩田さんによれば他にも同好の士が何人かいる様子。これがきっかけで2003年7月から森の手入れ隊「ヘイヘイホー」が8人で発足しました。名付け親は13回生の“与作”こと浜野氏です。定例活動は毎月1回、2泊3日で森の手入れや周辺環境整備です。年に2回は土日を使ったフリー参加、公募の「ヘイヘイホー」も行っています。森の中での活動が好きな方ぜひ一緒にボランティアをやりましょう。性別、年齢問わず大歓迎です。

（写真は2004年11月のヘイヘイホー、参加18名）



五感を駆使して窯焚き

高校8回生（昭和31年卒） 金成絢子

竹早山荘内にある穴窯・清々窯は、築窯以来十数年、愛好者の手によって焚き続けられています。

穴窯は、人間の五感を駆使して焚き上げる原始的な窯です。炎の色で温度を知り、薪の燃える音で薪をくべるタイミングを計り、作品のきらめきや光り方で、灰のかかり方や溶け具合を察します（写真は窯焚き風景）。窯と相談しながら、薪の太さや投げ入れる本数、間隔を計ります。四昼夜以上、こんな作業を続けて窯を閉じます。毎回、焼かれる作品の大きさや量、窯詰めが異なるので、同じ窯焚きはありません。それが、穴窯の面白さであり、難しさでもあります。

窯焚きに魅せられたメンバーが、同好会をつくって維持していますが、窯もメンバーも老朽化してきました。積立をして窯の修理に備えています。メンバーはさて？というわけで同好会会員を募集中です。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1) 同好会会員募集 | 3) 窯焚き |
| 2) 17年度作陶会 | 搬入 9月10日(土) |
| 第1回 5月26日(木)～30日(月) | 窯焚き 9月14日(水)～19日(月) |
| 第2回 6月30日(木)～7月4日(月) | 窯出し 10月1日(土) |

お問い合わせは竹早会まで

癒しの森竹早山荘イベント案内

- 主なイベント(どなたでも参加OK)
- 4月 森のヴァイオリンコンサート(29日)
- 石窯づくり(30日～)
- 5月 リフレッシュ・ツアー(13日～14日)
- 第1回森の手入れ(21日～22日)
- 作陶(土と遊ぶ)(26日～30日)
- 6月 スポーツ吹き矢講習会(4日～6日)
- リフレッシュ・ツアー(17日～18日)
- 作陶(土と遊ぶ)(1日～4日)
- リフレッシュ・ツアー(15日～16日)
- 8月 リフレッシュ・ツアー(19日～20日)
- 9月 リフレッシュ・ツアー(16日～17日)
- 穴窯の窯焚き(14日～19日)
- 10月 リフレッシュ・ツアー(14日～15日)
- 清里落語の集い(16日)
- 11月 第2回森の手入れ(5日～6日)
- 秋の集いソプラノコンサート(5日)
- 4月～10月まで毎月リフレッシュ・ツアー(お勧めです)
- 森林浴・ガイド付ハイキング、体に優しい食事
- ワークショップ参加者同志の交流
- 新宿から往復バス(現地参加・延泊可)
- 自然体験のイベント企画/大歓迎!
- 合宿・キャンプ・子育てサークルなどにご利用下さい
- ◆ 自然体験のボランティア・スタッフ募集

お問い合わせ先
竹早会事務局
e-mail:takehayakai@dream.com
FAX03-3941-5872 TEL03-3943-2415



学校の活動報告

竹早高校副校長 丸山正広

篋会には毎年多大なご支援をいただき感謝申し上げます。おかげさまで、生徒たちは大変に恵まれた環境の中で学習、学校行事、部活動と充実した学校生活を送っています。

平成16年度も45分7時間授業・2学期制をより充実したものにすため、年間行事の検討や、長期休業日の弾力的運用試行校として夏季休業日の始期を遅らせるなど前後期の授業日数の不均衡是正等を行っています。

学習面では学力向上フロンティア事業の2年目の取組として、1学年の英語で習熟度別授業を導入するとともに、教科と連携した総合的な学習の時間の実践に取り

● 平成16年度主な行事

4月 6日始業式 7日入学式(239名入学) 15日健康診断 28日校外学習(遠足) 30日生徒総会

5月 15日PTA総会 19日体育祭(小石川運動場) 31日~6月3日定期考査

6月 3日避難訓練 12日授業公開 24日第1回学校運営連絡協議会

7月 12~15日期末考査 15日歌舞伎教室 22日第1回大学講座(早稲田大学、明治大学、東京理科大学) 23日全校集会

24・25日水泳部関東大会(前橋市)出場 7月~8月夏季休業日 補習各教科で500時間を実施 合宿 尾瀬(剣道、柔道、バドミントン、ソフトテニス、男女硬式テニス、ダンス、吹奏楽、箏曲) 河口湖(男女バレーボール、男女バスケケットボール) 山中湖(サッカー) 六日町(軟式野球) 霧ヶ峰(陸上競技) 竹早山荘(天文、写真) 北アルプス・白馬岳~白馬三山(山岳部)

8月 18日水泳部インターハイ(松江市)出場

9月 1日課題テスト・集会・防災講話 10日竹の祭 11~12日竹早祭 10日~14日水泳部国民体育大会(川口市)出場 28日前期終業式 29~30日期間休業日

10月 1日中学校女子バレーボール大会(竹早杯)12校参加 4日後期開始 8日韓国教員団体総連合会学校訪問 9日体験入学・学校説明会 16日PTA夢さがし講演会(講師:宮本まき子氏) 25日公開授業、学校説明会 27日~29日プレ定期考査 29日第2回大学講座(東京学芸大学、埼玉大学)

11月 4日第2回学校運営連絡協議会 7日開校記念日 7日都立高校合同説明会(新宿高校) 14日(立川高校)

12月 3日~8日定期考査 20日全校集会 21日~1月7日冬季休業日 補習 各教科で70時間を実施

1月 (平成17年) 11日授業開始 15・16日大学入試センター試験 17日フロンティアハイスクール事業 授業公開・研究協議会 27日推薦入試

2月 17日帰国生入試 19日保護者のための進路講座 23日一般入試 24日国際理解講演会(講師:外務省経済局政策課長 越川 和彦氏)

3月 3日~8日定期考査 9日芸術鑑賞教室 13日卒業式(249名卒業) 15日~18日2年修学旅行(沖縄) 23日大学等説明会 25日修了式

組んでいます。

さらに、今年度から東京都の進学指導研究協議会?グループ(進学実績の向上を目指す学校)に加わり進学指導のあり方について調査・研究・実践に取り組むことになりました。

篋会会員の皆様が連綿と引き継いでこられた伝統である自主自律の精神を育てつつ、確かな学力を身につけさせ、進学指導の一層の充実に教職員一丸となって努力をしております。今後も篋会のご支援、ご協力をお願い致します。

以下、実施した年間の活動と進路実績を報告します。

● PTA主催の竹早塾(土曜自習室)年間10回

● 進路状況(合格者数一覧・平成16年度卒業生249名) 3月30日現在

● 国立大学(16) 北海道大学、お茶の水大学(2)、千葉大学(2)、東京学芸大学(2)、東京農工大学(2)、東京海洋大学、首都大学東京(4)、帯広畜産大学、国際教養大学

● 私立大学(302) 早稲田大学(15)、慶応義塾大学(3)、上智大学(3)、東京理科大学(7)、明治大学(23)、青山学院大学(11)、立教大学(10)、中央大学(5)、法政大学(20)、津田塾大学(3)、日本女子大学(9)、東京女子大学(11)、学習院大学(10)、明治学院大学(5)、成蹊大学(7)、武蔵大学(9)、成城大学(6)、日本大学(10)、東洋大学(14)、駒沢大学(4)、専修大学(3)、東京電機大学(2)、東京農業大学(6)、東京家政大学(9)、芝浦工業大学、大妻女子大学(4)、昭和女子大学(6)、麻布大学、亜細亜大学(2)、跡見学園女子大学(5)、桜美林大学、神奈川大学、北里大学(3)、共立女子大学(2)、工学院大学、國學院大学、実践女子大学、百合女子大学(2)、聖心女子大学(2)、清泉女子大学(3)、創価大学(2)、大東文化大学(8)、拓殖大学、玉川大学、東海大学、東邦大学(3)、獨協大学(2)、日本社会事業大学(3)、文教大学(8)、武蔵野大学(2)、白梅学園大学(2)、惠泉女子大学(3)、駒澤女子大学、武蔵野美術大学(5)、多摩美術大学(2)、高千穂商科大学、東京国際大学(2)、東京医療保健大学、東京工科大学(2)、日本赤十字看護大学(2)、東京女子医科大学、杏林大学、城西大学、城西国際大学、東京薬科大学、文化女子大学、日本体育大学、フェリス女子学院大学、聖徳大学

● 国立看護大学校

● 埼玉県立短大

● 短期大学(9) 青山学院女子短期大学、東京農大短期大学、日本体育短期大学、昭和女子短期大学、大妻女子短期大学 等

● 専門学校(13) 東京医科大学看護専門学校、都立板橋看護専門学校、東京医療秘書専門学校、東京柔道整復専門学校、日本美容専門学校、ヤマザキ動物専門学校、香川栄養専門学校、大原法律専門学校 等

● 就職(0)

在校生の活躍紹介

全校生徒の9割以上が部活動に参加し積極的に活動しています。

中でも校外での活躍が目覚ましい「化学研究部」と「水泳部」を紹介します。

化学研究部

部長 所 泰志

はじめまして、化学研究部です。私たち化学研究部は普段週2回活動しています。主な活動としては、部員が図説を読んで興味を持った実験を行っています。

その他に、夏には毎年恒例の出張実験を板橋区にある教育科学館で行っています。平成16年度の出張実験は「ジアゾコピー」で、写し絵をして見せるという実験でした。この実験はなかなか好評で何度も実験をしに来る子もいるくらいでした。出張実験をしに行った甲斐がありました。

そしてさらに昨年は、対外活動にも力を入れ、茨城県総和町で行われた「青少年のための科学の祭典」や文京区民センターで行われた「文京ボランティア祭」に参加しました。

総和町に行った時は東京都外での活動が初めてだったので、少し緊張もありましたが、実験が始まり子どもたちが来るようになると緊張はなくなりました。子どもたちが楽しそうに実験をしている姿を見ると、こちらまで楽しくなってきました。文京ボランティア祭では、しおり作りをしました。これには子どもだけでなく大人の人にも気に入っていただけたようでした。

これらの実験を通して子どもたちに化(科)学の面白さを伝えることができたことは大変良かったと思います。これからもこのような活動を続け、子どもたちが化学に興味を持つきっかけになれば良いと思っています。

(顧問・片江安己教諭)



水泳部

顧問 椋本哲也(情報科)

平成16年度の水泳部には大型ルーキー、西村香澄さん(写真前列中央)が入部してきました。

中学3年の時点で既に日本選手権の出場制限タイムを上回り、4月の日本選手権24位、インターハイ出場は確実で、インターハイの決勝に残る可能性もあるという期待の新入生です。

その期待に違わずインターハイ予選の前哨戦、6月12日、13日に行われた東京都春季大会では女子50m自由形で優勝。6月26日、27日の都高校大会(インターハイ予選)では50m自由形で予選3位、決勝2位。100m自由形では予選6位、決勝4位と、2種目で関東大会への出場を決めました。

ここまでは順調にきたのですが、故障を抱えていた腰が悪化し、歩くのもつらいという状況に。7月24日、25日に群馬県前橋市で行われた関東大会は最悪のコンディションで迎え、50m自由形では予選決勝ともに9位で何とかインターハイに駒を進めましたが、100m自由形では15位に終わりインターハイ出場を果たすことはできませんでした。

8月18日、島根県松江市でのインターハイでも体の不調は克服できず、50m自由形11位で惜しくも決勝に残れませんでした。

しかし、腰に不安を抱えたまま迎えた9月、埼玉県川口市で開催された国民体育大会に東京都代表として選考され、女子混合200mリレーで優勝(国体新記録)を飾りました。

その後、治療の甲斐もあって調子を戻しつつあり、今年度はインターハイ決勝も夢ではなさそうです。



関西簞会だより

野田 朱實 関西簞会会長 高校7回生 (昭和30年卒)

関西簞会だより

昨年の関西簞会総会は簞会から星野昌子会長代理の河村恵子総務担当理事(高校12回)を来賓にお迎えし、紅葉の色づきはじめて京都で開きました。

総会前に河村様の出席のことが知らされ、幹事の中に副会長以下2名の同期がいて「あら、あら」と受付から大歓声で例年にない元気な、和やかな会がはじまりました。総会には長年に亘り会長としてお務めくださり、東京、湘南簞会との交流に大変ご尽力され今に至った、元会長内藤花様と、同じ時期に内藤会長を支え簞会をまとめ、関西簞会の体系を築き私たち高校生に引き継いでくださった前会長河合道子様のご出席されて、会員のみならず出席の皆さまと共に感謝の気持ちでいっぱいでした。

猛暑の夏、天候不順の秋で出席予定の方の直前欠席の多い総会でしたが、おいしい料理と若い係りの見事な司会で先輩方の素晴らしいご活躍ぶり、近況報告や久しぶりのご歓談に校歌2曲を内藤様の指導で歌い、記念撮影と進みお開きとなりました。

次回のお約束をしながら思うことは、来年18年はもっと多くの方々とお会いしたく、高校卒業生会員への呼びかけが私たちの課題です。関西簞会事務局で毎年発行する名簿で今まで進んで来た学年順に従って今年の総会の当番学年は高校22回と23回で、担当は姫野優子様と遠藤美智子様が決まりました。そこで当番学年は総会には必ず出席していただき同期、同級の再会を、来年18年は24回と25回生(多勢いらっしゃいます)が当番です。簞会会員の皆様、これを機に同期会、級会を関西で開きませんか? お手伝いさせていただきます。

関西簞会の更なる充実に向け、「和」を合い言葉に秋の総会はちょっと郊外に出て、山あり、川あり、温泉あり、歌劇ありの街、宝塚で行います。クラシックなホテルで憩いませんか?

簞会のご発展を心よりお祈りいたします。

平成17年関西簞会総会御案内

日時：平成17年10月16日(日) 11:30~

場所：宝塚ホテル(TEL. 0797-87-1151)



渡辺 庸子 高女44回生 (昭和19年卒)

第二の思い出 発生の不思議に魅せられて

地球上の生物は、すべて35億年もの昔、原始の海に生まれた たった一つの細胞様のものから分化した。だから生き物はみんな同胞なのだ。個体発生は系統発生を繰り返している。「その気になれば、身の回りの小さい虫の一生からでも進化の歴史をたどることが出来る」と聞いたのは、女学校2年生の時。遠い遠い昔を夢見るような先生の澄んだまなざしが今も忘れられない。4年生になって、物理の時間に「光」について習ったとき、写真を教えていただいた。立派な暗室があり、ボール箱でピンホールカメラを組み立て色々な実験をした。フィルムをプロジェクターで拡大すると、気が付かなかった色々なことが浮かび上がる。驚きと同時に、小さい卵の中でも写真に撮れば拡大されて発生の不思議、進化の歴史の不思議を見る事が出来るのではないかという夢がわき上がった。

卒業、敗戦、結婚と女性にとっては戦後の激動の30年余が過ぎ、テレビが普及し、自然の不思議を目の当たりに見ることが出来るようになり、カメラも庶民のものとなった。時間ができ、かつての夢が鮮やかによみがえった。昔の実験を思い出しながら、試行錯誤の写真撮影を始めた。ただ発生の不思議を知りたい思いに支えられて、何も知らないだけ大胆に、漸くアカタテハの美しい卵と、幼虫がはっきり確かめられたときの震えるような喜び。とりためた写真が全国コンテストで準グランプリとなった。これが縁で時にはTVの科学番組や、子供の本のお手伝いもすることがあり、視野も広がって、夢もふくらんでゆく。体力の衰えは厳しいけれど、気持ちだけは老化を超えて、好奇心いっぱいである日々感謝するこの頃です。

島崎 良一

高校18回生 (昭和41年卒)

私と関西簞会

私は関西簞会には1994年、初めて出席しました。私はこの年の4月に神戸に引っ越しました。それから約1ヶ月後、旧住所宛に関西簞会の案内が届きました。住所変更もしなければならぬと思いついて、なんと「出席」と返事をしてしまいました。この年の幹事は高校12回生の方で、男性が少ないので是非幹事をやってくれと言うお話。出来ないことでもないので渋々お引き受けしたのであります。

その日の会場は出席者約50人でほとんどが女性、男性は3~4人でありました。しかし、同窓生というのはなんとありがたいことか。年代も違う方々とも親しく話をさせていただき、大変楽しい一時を過ごしたのであります。

その後、それまで当時副会長の西出さんがやられていた住所録と会報の編集を引き受けさせていただき現在に至っています。この間、人の輪は大きく膨らみ、それまでは考えも及ばなかった方々とおつきあい出来るようになりました。友人の幅がその人の評価となるという事も言え、私にとっては大きな財産を得たと思っています。



湘南簞会だより

金子 浩子

高校2回生 (昭和25年卒)

湘南簞会の近況報告 —平成16年度(2004年)の活動—

晴天に恵まれました5月17日、恒例の総会と親睦会が鎌倉プリンスホテルで開催されました。先ず総会では、当年度にご他界された会員の方々のご冥福を祈り、次に会長の塚証子さんからご挨拶がありました。続きまして、お迎えしましたご来賓の簞会会長星野昌子様と名誉顧問の城戸崎愛様からそれぞれ貴重かつ楽しいお話を賜りましたことは光栄でございました。

当年度は、役員(高校2回生)で新名簿作成を計画し、湘南地方在住の高校47回生までの新規加入を目指して作成、配布いたしました。これに就きましては作成委員の神林範さんから報告がありました。毎年、頭痛の種の会計報告が神林範さん、北村英子さんのご苦勞でスムーズに運びほった次第です。

親睦会は橋本松子様(高女35回)の乾杯に始まり、フランス料理着席のパーティーとなりました。お料理のオーソリティー城戸崎愛様からは「おいしいですね」とのお言葉を頂き、役員一同「やったー！」の安堵。アトラクションでは「やすらぎマジック」の珍グループの出演で、素人っぽい芸に皆爆笑でした。

校歌を共に歌い閉会。記念写真を撮影し再会を約して散会となりました。

幸いなことに湘南簞会は地域外の同窓生からも興味を持って頂いています。それで、そうした方々にも是非、会員になって頂きたく役員一同切に希望しておりますので宜しく願いいたします。

平成17年度(2005年)の総会並びに楽しい親睦会は下記のように計画しておりますので、奮ってご参加くださいませ。

日時：平成17年5月30日(月) 11:30am~2:30pm

場所：鎌倉プリンスホテル

会費：¥7,000



田村 美登利

高校6回生 (昭和29年卒)

湘南簞会のもう一つの顔

湘南簞会は、50年前に結成された鎌倉婦人子供会館の創立メンバーであります。この会館は鎌倉在住の旧女学校十数校の同窓会有志が集まり設立されたもので一般事業、教養事業、福祉事業を柱として運営しております。

湘南簞会としても各種行事には第二高女の先輩方が多数参加され、地域社会の文化向上に大なる貢献をしております。現在、橋本松子様(高女35回)が顧問として活躍され、私は評議員としてささやかながらお手伝いをさせていただいております。

高橋 健

高校10回生 (昭和33年卒)

簞会の輪「スポーツ吹矢」

「スポーツ吹矢」は腹式呼吸を取り入れたスロー健康スポーツとして、全国紙はもとよりマスコミ各社がこぞって報道。ここ一・二年急速に知名度をあげています。



実は5年前、まったく知られていない「スポーツ吹矢」に役員皆様が興味を示され、湘南簞会総会の折、ご披露させて頂く機会を得ています。50名程の参加者のうち半数以上は高女からの先輩で男性はわずか2名。そんな中で新スポーツを見てみようという先輩の皆様の進取の精神に心から脱帽。嬉しかったです。

時は流れ、昨秋、竹早山荘の「森のボランティア」に参加しました。(これ、軽作業で今年もあります。おすすめです) その折、岩田隆子さん(高校11回)に吹矢の話をしたところ、急速に話しは進展しこの6月、山荘での講習会が決まりました。

さらに、輪は広がって所沢のデイケアセンター「ひまわり」さんが「スポーツ吹矢」を採り入れてみたいとお申し出。こちらの施設長は中澤博子さん(高校11回)。娘さんも一緒に、地域密着の素晴らしいお仕事をなさっています。

初回は2月4日。10名程の方が体験され「思っていた以上に楽しい」「気分がスーッとした」「今度いつ来るの？」等々のお声を頂き、再訪が決定してしまいました。

こんな風に、簞会を通じて次々と「スポーツ吹矢」の輪も広がっています。今さらながら竹早の底力?を知る思いで、感謝です。

竹早 EJO

村松 守光

高校9回生 (昭和32年卒)

九籟会レポート

織戸先生を囲み、竹早山荘にて八ヶ岳山麓に秋の色濃い10月の2日、9回卒の16名が集いました。Dルームの有志が温めてきた「恩師の織戸先生を中心に、生田綾子さん(9D)のジャズを聴く集い」の案が、「九籟会」として実現したのです。



久々の、中には卒業後初めて！という再会もあり、ジャズトののって、大変な盛り上がりとなりました。ここで特筆すべきは「織戸先生はやはり大先生」という事です。恐れを知らずに白状いたしますと、先生はもう随分とお歳も召されたことでしょうし・・・などと勝手に想像していたのです。ところがところが！先生はその教え子一人一人の学生時代のこぼれ話等色々なことを鮮明に覚えておられ、矢継ぎ早の話の中で、その回転の速さに圧倒されたのです。極めつけは翌日の昼、外食で甲州名物の「ほうとう」を賞味した時のことです。カボチャなどの具もたっぷりの麺、決して小さくは無いその丼を綺麗に平らげられてから、居並ぶ教え子達に“そんなに残すなんて、食は全ての根源なのだからシッカリ食べなくちゃ駄目よ”と諭されたことです。一同は改めて「織戸先生に脱帽」し、恩師の益々の御健勝を祈ると共に、我々もシッカリしよう！と肝に銘じたことでした。(写真は織戸先生と16名の9回生、提供・清水 澄氏・9F)

西川 太一郎

高校13回生 (昭和36年卒)

「荒川区」の名誉回復に奔走

ギネスブック並みの連続汚職事件が発生し、我が古里・荒川区は天地がひっくり返る大騒動となった。

東京23区で初の区長と助役連続贈収賄事件が原因であった。

出直し選挙が行われる事になり、私に白羽の矢が立ち、とうとう出馬という事になった。都議、国会議員



わせて26年4ヶ月勤めたのだから、「今更」と言う人も居たし、「だから」と言う人もいた。

「だから」が日に日に増え、ついに決心をした。昨年9月16日の事だった。約2ヶ月後の11月15日に、荒川区長に就任した。

考えていた以上に区長の仕事は忙しいものだ。就任早々という事もあるが、とにかく来訪客が多い。10分おきの面会を、1日10数組、連日こなしている状態である。

政策決定も含め各種の判断を求められる会議も多い。今までに経験しなかった催し物に出て挨拶又スピーチをする機会がグーンと増えた。商店街の大売出しに出て、ジャンケンゲームを何回も繰り返してはドロップを景品として子供達にあげるのだが、つかわいそうでおまけしては、商店街の役員に叱られている。「区長さんから貰ってください」と言う言葉に励まされて、1日数箇所で行う事もある。

自転車盗難防止キャンペーンでタスキを掛けて、子供達とパレードするなど、今までにない、楽しい経験をつんでいる。

その他にも新しい区政の政策体系の構築を手がけ次々にマスコミに取り上げられている。

「区民を幸福にするシステム」として区政を位置づけ、1700人職員の先頭に立って、「公僕」として新人生をスタートした私は1日も早く、地に落ちた荒川区の名誉を回復する為に、汗をかいている毎日である。

池内 和彦

高校16回生 (昭和39年卒)

11年振りの同期会

平成16年11月13日、小石川後楽園内の「涵徳亭」で、11年振りに同期会が開催された。幹事による綿密な準備のもと、「16回生は40年前の東京オリンピックの年に卒業し、来年は還暦を迎える年代。子供や孫の自慢話、定年のこと、同病相憐れむ話などを、水戸様のお庭を見ながら昔の仲間とお喋りしませんか？」と呼び掛けた結果、男女比は、在学時と同じ1対2、総勢62名が出席した。美しい庭園を散策する人も多くいた。

最初にこれまでに逝去された同期の8名への黙祷から始まり、歓談のひとつときは、再会を喜び、近況を笑顔で報告し、一人ずつマイクを持ってスピーチが行われた。会社経営者、役員や教職員も多く、時間が経つうちに、記憶が蘇って、共通の体験談に、会場は盛りあがって、「八ヶ岳の竹早山荘にもう一度行ってみたい」との発言もあった。来年度の籟会総会(同窓会)の準備は、



16回生が担当学年との説明があり、「同期会」も兼ねて、みんなで集まろう、籟会の活動に協力しようという人も出てきて、大きな意義のある同期会となった。

二次会は隣の東京ドームホテル43階で、素晴らしい夜景を楽しみながら、さらに懇親のひとつきを過ごし、解散は、夜の11時を過ぎていた。

永長 隆徳

高校17回生 (昭和40年卒)

オリンピック開催の年に・・・

私達が卒業した1965年は東京オリンピックで日本中が沸きたった翌年でした。オリンピックのあった1964年は新幹線が開通しオリンピック景気に沸き、経済は高度成長期を迎えていました。卒業してそれぞれが新たな世界に飛び込み、社会人として着きはじめた1984年のロサンゼルスオリンピックの年に故吉田光之君(2004.2.11逝去)が提案し彼が中心となって初めて同期会を開催しました。

20年ぶりの懐かしい再会に学生時代にタイムスリップし昔話に花を咲かせ大変な盛り上がりでした。その後、夏季オリンピックの年に同期会を開催しています。昨年7月に卒業して40年目の同期会を帝国ホテルで開催しました。恩師から「君たちは新幹線が出来て日本が突っ走った時代を生きた」「これからは趣味や興味あることを通じて益々人間関係の輪を広げ人生をエンジョイなさい」など話をされると恩師の前では幾つになっても生徒の顔になっていました。

別々の人生を送ってきても同じ年を重ねてきた者同士の一体感が会場を包み、家族の話や将来の人生設計、趣味などこの年だからこそ楽しく話せるのだと感慨深く思いました。私達は良き時代に青春時代を過ごし、まだまだ現役で活躍している方々も、2年後には人生節目の還暦を迎えます。2年後には同窓会の幹事になっていますが、既に大まかな役割分担も決め、来る同窓会は是非、成功させたいと思っております。

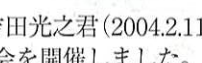
御代田 久実子

高校26回生 (昭和49年卒)

竹早高校と私

私が竹早高校に入学した年は、学園紛争の名残がまだくすぶり続けているような、沖縄の返還された不思議な年でした。今思えば、生徒は獲得した自由を使いこなせず、学校側は管理能力を失い暗中模索といった、混沌とした時代だったのではないかと思います。

権利・自由を何でもOKと勝手に解釈した私は、授業を抜け出



し友人と公園や喫茶店に行ったり、かなり危ない状態でした。しかし、自己の責任で何をすべきか、自ら考えることを、初めて知った3年間でもありました。今私の勤務する東京都の児童相談所は、0歳から18歳までの様々な子ども達が訪れます。ここ数年虐待の嵐が吹き荒れ、時としてマスコミの批判にさらされるシビアな現実の中にあります。その中で、大人不信に満ちた子ども達に、何があってもあなたを守る、一緒に考えようと言いきれるのは、自らの混沌とした高校3年間の経験が、原点となっているような気がします。

自分を大切にすること、周囲を見ること、柔軟な思考を持つことといった貴重なものの種を高校時代にもらったような気がします。奇しくもこの原稿を書いている最中に、仕事関連の紙面で、現竹早校長の新しい体制作りに関する文を拝見しました。どこかでつながっている竹早、たくさんの種をくれた友人、学校に感謝の気持ちで一杯です。

奥長 かおる

高校36回生 (昭和59年卒)

花に魅せられて

卒業して20年。高校の友人と会うこともなくなり、当時の記憶も薄れつつありますが、こうして原稿を書こうとして思い出すのは赤面するようなことばかり。高校時代はとにかく勉強が嫌い、かといって部活に熱心なわけでもなく、好きな教科は音楽と美術。「興味が無いのに勉強してもしょうがないと思います」などと言って、当時担任だった大石先生を困らせていたようです。

30歳を過ぎて、フリーでフラワーアレンジメントの仕事や講師、花の写真の仕事をするようになってからは、興味あることとないことではこうも違うのね、と納得。世界史の名前はさっぱり覚えられなかったのに、花の名前は1回で覚えるし、撮った写真は全て頭に入っているから不思議です。高校時代からこうだったらまた違った人生だったかも。

現在は3才になったばかりの娘の子育てと仕事に追われる日々。味覚や体力等人生の基礎になる部分が決まる乳幼児期は特に大切にしたいと思い、子供中心の生活の中でなんとか時間をやりくりしながら仕事をこなしています。娘も私が花の水揚げや撮影などを行っている横で大いに邪魔をしながら、真似をして花をいけたり、写真を撮ったり。娘と散歩しながら、「どうして?なんで?」の質問攻めにあい、答えに窮する平和な毎日。理科の教科書でも聞こうか、人に聞くにもちょっと教養疑われるかしら...やはり高校でちゃんとやっておけばよかったかな。



丸山 茂樹

高校46回生（平成6年卒）

母校周辺の街の風景

卒業して早くも11年。あっという間であり、長くもあります。小生の住まいは卒業時と変わることなく、竹早高校の近くです。茗荷谷限界も随分と変わりました。駅ビルが建ったのは、私が丁度卒業した時でした。その後、お酒が飲める年になり、ぽつぽつと開店する飲み処が出来る度にふらりと吸い込まれていきました。最近では都営バスの操車場に高いビルが建つようです。



南アルプス国立公園「夜叉神峠」

高校生の時は校舎の建て替えと重なっていました。旧校舎と新校舎（未完成でしたが）のどちらにも入れた珍しい世代です。私は柔道部に所属しており、道場が無いので、教育の森スポーツセンターに出掛けました。現在は立派な体育館とグラウンドが出来、素晴らしい道場が使えるようになり、少しうらやましく思います。

大学卒業時、教育実習で竹早高校の皆様には大変お世話になりました。教職の道ではなく製造業の営業マンとして働いてはいますが、実習での経験や生徒の皆様との触れ合いは小生の宝です。11年経ち、自身も街の風景も随分と変わりましたが、春日二丁目のバス停を通る度に思うのが、ここが母校、という事です。フジモリのパンが無性に懐かしく食べたくなります。

松岡 聡美

高校56回生（平成16年卒）

卒業生と在校生をつなぐ竹早塾

卒業してはや1年。大学での生活にすっかり慣れてしまって、毎日竹早に通っていた日々が懐かしいものを感じられてならない。とはいうものの、卒業後も1ヶ月に1回ぐらい母校の竹早に足を運んでいる自分の姿がある。

というのも、「竹早を卒業した大学生たちで現役竹早生の勉強を手助けすることはできないだろうか。」と始まった竹早塾（土曜自習室）に教え役として参加しているのだ。竹早塾は土曜日の休みを利用してテスト前に開かれていて、科目ごとに質問を受けたり、少人数で集中的に勉強したりしている。在校生にとっては勉強の分からないところや受験について気軽に先輩に質問で

きる場であり、教員志望者が多い卒業生にとっては、教え方の練習の場にもなっていて、まさに一石二鳥だ。

さらに、この竹早塾のいいところは、卒業生と在校生をつなぐ場にもなっていることだと思う。卒業以前には顔も名前も知らなかったような竹早生と仲良くなってしまうのだから。もう卒業はしてしまったけれど、今度は在校中にはできなかった新しい竹早との関係を築いていきたいと思っている。

届けられた旧会報「たかむら」

昭和34年版の旧会報「たかむら」<第56号>が高校11回生小杉義信氏から届けられた（写真）。

「たかむら」の題字と竹の挿絵というシンプルな表紙を捲ると、冒頭「小平農地から郊外寮の建設へ」のタイトルで、関一穂校長（当時）が郊外寮建設への概要を紹介している。35年に完成した現「竹早山荘」である。また、時代を反映して昭和30年に「スターリン平和賞」を受賞した、関鑑子さん（高女17回生、大正11年～昭和4年音楽教師として母校に在籍）が随想欄に戦後「うたごえ運動」に尽力された模様を「私の小さい報告」として綴られている。「たかむら」は昭和26年から昭和40年代まで発行されていた。

※古い資料をお持ちの方、ぜひご提供を。



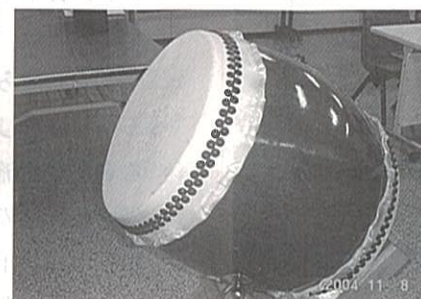
活用される 「篁基金」

「篁基金」（篁会館記念教育活動援助基金）による竹早高校全体の環境整備、物品購入については平成

10年より10年間の計画で進められている。これまでに校旗が新調され、校歌のレリーフが体育館に掲げられ、グラウンドには投光器（夜間照明）が設置されるなど、篁会館跡地の売却金の一部が母校の教育環境の整備に活用され貢献している。今回からその一端を写真で紹介する。



トロフィー・カップ展示ケース



和太鼓（体育祭応援団で使用）



体育祭優勝旗

ホームページ開設のご案内



トップページ



会報アーカイブ

校歌

会員の新しいコミュニケーションの場として、このたび篁会ホームページを開設いたしました。生まれたばかり、立派な一人前となるためにご意見ご支援のほどよろしく申し上げます。ぜひ、見てください。

<http://takamurakai.web.infoseek.co.jp/>

学校見学のご案内

下記の通り学校見学を行います。都内屈指の設備のコンピューター教室でパソコンに触って、初めてのインターネット体験はいかがですか。ご希望の方は下記にご連絡ください。詳細を送付いたします。



日時：① 7月11日(月)／12日(火)
② 10月25日(火)／26日(水)

連絡先：〒166-0015
杉並区成田東5-28-15
03-5932-5755(FAX共)

河村 恵子(高校12回)

平成16年度「篁会総会」報告

平成16年度篁会総会及び懇親会は

- ①多くの方に参加をしていただく
 - ②若い人との交流を深めよう
 - ③アグレッシブに輝いて生きる
- の三つをコンセプトとして企画した。

在校生から高女の先輩まで、さらには先生方にも出席いただき豊かな交流の時を共有した。

日時：平成16年6月6日 10:30～14:30

会場：東京プリンスホテル

出席者：226名(在校生49名は含まず)10代の出席者が60数名と多かった。

幹事学年：高校14・25・35・55年生

[篁会総会] 理事会報告・15年度事業報告・16年度事業計画等の議事が行われた。

[講演会] 『人生はオフロードレース』
講師 能城律子さん(講演会要旨参照)

[演奏会] 在校生の吹奏楽部による演奏。

[懇親会] 来賓を代表して甲田校長の挨拶。
平川教諭(高校52回生)の乾杯で懇親会に、長寿会員・新入会員の紹介並びに国広・本多両先生のお元気な姿に接し嬉しく思った。校歌斉唱など盛況のうちに閉会となった。

平成16年度「篁会総会」決算報告

(単位 円)

■収入		■支出	
会費(205名)	1,622,000	会場費	1,396,500
祝金	30,000	講演・演奏謝礼	305,680
篁会より補助	278,130	プログラム印刷代	50,585
		通信費	48,940
		その他	128,425
合計	1,930,130	合計	1,930,130

人生は オフロードレース



—能城律子さん講演要旨—

バレリーナになる夢を捨て、23歳のとき友人とクラシック音楽のレコードを扱う貿易会社を設立、世界中を駆け回る。苦勞のすえ10年後に事業から離れる。

どうしたら一人で生きていけるか考え、物書きになろうと決意し、1年がかりで世界の女性とこどもの生きる姿を見る旅を敢行、65カ国(累計124カ国)を巡る。帰国後「女の 아프리카」を出版。この旅での見聞を生かして1973年、38歳のとき、東京のホテルニューオータニの中に世界初のホテル内保育施設「ベビールーム」を開設、今日に至る。

35歳で子宮がん、42歳のときには乳がんを両胸を切除、「余命3年」と宣告される。病気との闘いを続けるなかでパリ・中央アジアラリーというものがあることを知り、これに参加して、まだ行ったことのない中央アジアに行こうと決意する。1993年58歳、ついに国際A級ライセンスを取得、翌年デビューを果たす。

1995年、60歳のときにパリ・ダカール・ラリーに参加、それまでの態度を改め、すべてを赤裸々に出して共に生きていこうと決心し、脳を除き身体中ずたずたに切り裂かれていることを発表、「なぜ出る? 死ぬよ」と言われるが59位で完走する。「ごめんなさい」



「ありがとう」と素直に言えたら、どこの国に行ってもどの民族にも受け入れてもらえることを確信する。次のマスターラリー。この過酷なレースを終えて、「自分はどんな苦しいことがあっても、それから逃げ、避けてきたことはなかった。このマスターラリーは自分の人生そのものだ」と実感。以後、レースから離れられない生活となる。

その後、アフリカや中央アジアのレースに参加してこどもたちの教育環境の劣悪さを知り、ただハンドルを握って走るだけではなく何か役に立つことはできないかと考え、世界を旅していた頃に「ミルクの宅配おばさん」になろうと思った。レースの傍ら毛布や鉛筆、紙、石鹸などを現地の学校や病院に届ける活動始める。「何か役に立つことはないか」と自分の役目を考えることは生きていくうえでとても大事な。

2004年1月クエート経由でイラクのバスラへ。劣化ウランによって放射能を浴びたこども病院を訪ねたら、病院には何も無い。援助金が途絶えていて何もできないのだという。薬のおいもおむつのおしっこ

のにおいもない。何もない箱の中にこどもがいて、そばにお母さんが坐っているだけ。イラクはもっとひどくなり、そこに誕生する小さな生命はもっと悲惨な状況になっていく。もっとひどくなる現地には行けないとしても、何かできないか。その地域の歴史を勉強すれば何か支援する方法は見つかるのではないか。今の自分は、両肩関節障害で腕は上がらない、後ろにいかない。握力は1、でもハンドルは握れる、行動できる。自分の環境・肉体すべてを含めて何をしたらよいか。今からがスタート!

篁会総会



1987年、はじめて行ったイラクの村。空爆でやられた家の窓枠を持って行って売っている家長。盗んだっていいのだ、これは家族を食べさせる責任を果たすための知恵、大自然との調和。

あるいはエジプトの小学校。紙を届けようと訪ねたのに「施しは受けません」と拒否する校長先生に教えられた、プライドをもって生きるということ。

今、切に願うことは、子供たちが、本当に安心して住める、自分の足で立ち、自信をもって歩ける環境づくりへのお手伝いである。

理事会報告

平成16年度は以下の通り理事会を開催した。

- 4月5日 出席者14名、委任状2名
 - 議題1 平成15年度収支報告及び16年度収支予算案可決
 - 議題2 新理事の承認：永長隆徳(17回)、平川悟(52回・竹早高校教員)
 - 議題3 箆会ホームページ開設：準備委員会の設置を決定
- 4月27日 出席者15名、委任状1名
 - * 会報委員会報告：会報12,388冊の発送完了
 - * 新理事の承認及び理事辞任の承認：
 - 新理事・吉岡新(21回) 辞任理事・浜野輝夫(13回)、竹田清(13回)
- 7月5日 出席者17名、委任状1名
 - * 新理事承認：池内和彦(16回)、甲神岳(16回)
 - * ホームページ(HP) 開設：準備委員会メンバー(4名)を確定
 - * 竹早山荘支援：竹早会より竹早山荘の運営に関し箆会よりの支援要請あり、討議未了のため次回での継続協議へ
- 9月3日 出席者18名、委任状2名
 - * 新理事承認・理事辞任：新理事・川島己代(15回) 辞任理事・吉田年子(14回)
 - * 百周年記念基金残高運用：百周年記念基金残高を箆会一般会計に組み入れ、主として周年行事向けに箆会が管理、運用することを決定
 - * 竹早山荘支援：協議結果、次回の理事会で方向性を決めることとした
 - * その他議題：16年度総会収支報告、16年度会報収支報告、17年度総会準備報告
- 10月13日 出席者18名、委任状2名
 - * 新理事承認：藤島滋郎(17回)、小林稔(23回)、中村光宏(23回)
 - * 会報委員会報告：4月12日校了、4月23日発送予定
 - * 竹早山荘支援：再々協議の結果、箆会としては、山荘の管理・運営に携わることは不可だが、会報への山荘記事掲載など従前どおりの側面支援の継続を合意
- 12月20日 出席者22名、委任状1名
 - * 会長の任期満了：星野会長より05年6月の任期満了に伴う辞任と再任固辞表明あり
 - * 新理事承認：金澤俊男(16回)
 - * 対竹早高校教育援助金：竹早高校側より財源難から現行の箆会よりの援助金5万円を10万円に増額要請あり、次回までの検討課題とした
- 1月22日 出席者16名、委任状7名(理事会兼会費制新年会)
 - * 新会長選出委員会：理事メンバー数名による選考委員会を構成することを決定し、メンバーの選定は星野会長に一任とした
 - * HP準備委員会報告：2月開設に向けての準備進行中。一方、竹早高校の施設を利用しての箆会メンバー【特にシニア】向けパソコン教室の開催につき理事会は承認し、今後学校側との協議も含め詳細の詰めを行うことを決定
 - * 新理事承認：板東尚武(13回)
 - * 高校卒業生の箆会加入問題：高校側より、卒業＝箆会入会＝入会金支払い(箆会の最大の財源)という従来の自動的入会システムの存続が困難な事情となったため、卒業生への箆会加入促進策に理事会として側面援助を期待するとの要請あり
 - * 対竹早高校教育援助金増額：上記の事情も踏まえ、箆会と学校との双方向の関係強化を図る方向性の一環として5万円の増額を承認。

箆会平成16年度収支報告 2005/3/31

平成16年4月1日より平成17年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	12,746,061	総会開催関係費	1,930,130
入会金：新入会員249人	1,992,000	贈呈記念品費、新卒入学生	414,277
年会費	2,195,000	会報発行費	2,209,238
総会会費	1,652,000	会議費	102,823
出版物販売代金	55,200	通信費	21,480
雑収入	9,761	旅費交通費	27,040
受取利息	1,486	事務用品、消耗品代	1,949
		教育援助金	50,000
		慶弔費	20,000
		事務委託費	19,000
		HP立ち上げ経費	6,300
		諸事業経費	0
		会費払い出し手数料	136,600
		予備費	0
小計	18,651,508	小計	4,938,837
		次年度繰越金	13,712,671
百周年事業基金	5,540,090	百周年事業基金	5,540,090
合計	24,191,598	合計	24,191,598

次年度繰越金内訳	
銀行預金	みずほ銀行本郷支店 1,770,866
郵便貯金	通常口 792,981
	定期貯金 4,038,824
	定額貯金 7,000,000
	通常口(百周年事業基金) 5,540,090
仮払金	110,000
合計	19,252,761

箆会平成17年度収支予算(案)

平成17年4月1日より平成18年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	13,712,671	総会開催関係費	1,900,000
入会金：新入会員249人	1,920,000	贈呈記念品費、新卒入学生	400,000
年会費	2,160,000	会報発行費	2,300,000
総会会費	1,600,000	会議費	150,000
出版物販売代金	50,000	通信費	20,000
諸事業収入	300,000	旅費交通費	60,000
受取利息	1,000	事務用品、消耗品代	4,000
		教育援助金	100,000
		慶弔費	80,000
		事務委託費	60,000
		HP立ち上げ経費	100,000
		諸事業経費	300,000
		会費払い出し手数料	150,000
		予備費	200,000
小計	19,743,671	小計	5,824,000
		次年度繰越金	13,919,671
百周年事業基金	5,540,090	百周年事業基金	5,540,090
合計	25,283,761	合計	25,283,761

平成16年度箆会理事名簿

会長	星野 昌子(高校2回生)	池内 和彦(高校16回生)
副会長	萩 隆之介(高校12回生)	甲神 岳(高校16回生)
	犬伏 慶子(高校10回生)	金澤 俊男(高校16回生)
	黒瀬 忠生(高校11回生)	坂原富美代(高校17回生)
	河村 恵子(高校12回生)	永長 隆徳(高校17回生)
	遠藤 きみ(高校13回生)	大高 恵子(高校17回生)
	板東 尚武(高校13回生)	藤島 滋郎(高校17回生)
	村上 伸一(高校14回生)	吉岡 新(高校21回生)
	福島 成二(高校14回生)	小林 稔(高校23回生)
	豊岡 貞之(高校15回生)	中村 光宏(高校23回生)
	土田 善則(高校15回生)	細田 裕美(高校28回生)
	川島 己代(高校15回生)	平川 悟(高校52回生)

お知らせ

- ①箆会は、会員の消息を把握し、総会の案内など交流を図るため会報を毎年1回全員に配布しております。この会報が皆様の会費で賄われていることをご理解のうえ、年会費の納入にご協力くださいますようお願い致します。
17年度会費1000円は同封の郵便振込用紙をご利用ください。
- ②100周年記念誌は多少の余部があります。ご希望の方は、年会費振込用紙に記念誌希望と明記のうえ、年会費に加算して、5000円ご送金ください。
- ③箆会会員名簿(2002年版)の購入ご希望の方は年会費振込用紙に箆会会員名簿希望と明記のうえ年会費に加算して、3800円ご送金ください。
- ④本誌へのご意見、ご感想を同封のはがき(総会出欠用)でお寄せください。また、住所が変わられた方は下記までお知らせください。
〒112-0002 文京区小石川4-2-1 東京都立竹早高校内「箆会・名簿委員会」

編集後記

今号は竹早という共通の学舎で青春を過ごした「今昔」を特集しました。総会担当学年「高校15回生」の尽力によるものです。戦火から母校を守った高女の先輩から、現在母校で教鞭を執る高校52回生までと、幅広い年代の卒業生に執筆していただきました。また、今年45周年を迎える「竹早山荘」の企画にあわせるように、旧会報「たかむら」の昭和34年版が届けられました。「竹早寮」建設に至る経緯が綴られており先人の労苦の一端を知ることが出来ました。ご執筆、ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。また、「会報」誌面のますますの充実のために自薦他薦の投稿をお待ちしています。(会報委員長 山内 亨)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

旧職員			
青木 茂	国語		H16.8
小野 政吉	美術		H16.7.13
鬼頭 綾子(磯部)	保体		H15.2.25
斎藤正一郎	物理・化学		H14.12
佐賀 宗久	社会		H15.6.6
早坂 太	英語		H15.7
高女			
大正 7年卒業 (18回生)		伊藤 み糸	H12.3.2
大正14年卒業 (25回生)		時永 好恵	H9
大正15年卒業 (26回生)	(甲組)	木下 芳子	H16.3.16
大正15年卒業 (26回生)	(甲組)	杉 寿恵	H13.12.4
大正15年卒業 (26回生)	(甲組)	樋端 千代(井上)	H15.10.10
昭和 4年卒業 (29回生)	(乙組)	橋本 福代(川口)	H16.2.23
昭和 4年卒業 (29回生)	(乙組)	竹内やす子	H15.11.21
昭和 5年卒業 (30回生)	(甲組)	岡田 歌子(林)	H15.4.14
昭和 5年卒業 (30回生)	(甲組)	吉川 瑩子	H16.1
昭和 5年卒業 (30回生)	(甲組)	磯田 隆子(佐々木)	H14
昭和 5年卒業 (30回生)	(乙組)	原田 久(小鷹)	H16.1.30
昭和 6年卒業 (31回生)	(甲組)	阿野 洲子(工藤)	H15.10.25
昭和 6年卒業 (31回生)	(甲組)	岡田 愛子(山路)	H16.6.24
昭和 6年卒業 (31回生)	(甲組)	神谷美喜子(林)	H15.10.23
昭和 7年卒業 (32回生)	(甲組)	安中美志子(江島)	H15.2
昭和 8年卒業 (33回生)	(甲組)	松本 鶴子(蓮沼)	H15.7.1
昭和 8年卒業 (33回生)	(甲組)	安藤 鈴子(井関)	H16.4.6
昭和 9年卒業 (34回生)	(甲組)	竹内 富子(中村)	H16.4.15
昭和 9年卒業 (34回生)	(乙組)	飛岡 徳子(阿部)	H16.6.2
昭和 9年卒業 (34回生)	(乙組)	永井 レイ(野上)	H16.10.11
昭和 9年卒業 (34回生)	(乙組)	野原 順子(藤田)	H14
昭和10年卒業 (35回生)	(紅組)	豊田 節子(松本)	H16.3.20
昭和10年卒業 (35回生)	(白組)	堀内 良枝(二本)	H16.2.28
昭和11年卒業 (36回生)	(白組)	室田 久子(深井)	H14
昭和13年卒業 (38回生)	(白組)	石田とくこ(諏訪)	H15.3.15
昭和13年卒業 (38回生)	(白組)	島田 照子	H16.2
昭和13年卒業 (38回生)	(白組)	細谷 洋子(佐藤)	H16.3.23
昭和13年卒業 (38回生)	(白組)	松村 登子(古畑)	H16.10
昭和13年卒業 (38回生)	(白組)	西村 英子(中山)	H16.6
昭和13年卒業 (38回生)	(紅組)	伊東 雅子(西山)	H15.4.2
昭和14年卒業 (39回生)	(紅組)	小澤 美枝(中田)	H15.6.12
昭和14年卒業 (39回生)	(白組)	岩村 翠(桜井)	H16.5.23
昭和15年卒業 (40回生)	(白組)	宇野 祥子(野口)	H15.10
昭和16年卒業 (41回生)	(紅白組)	山岡 智子(大賀)	H14
昭和16年卒業 (41回生)	(紅白組)	山本 伸子(小田)	
昭和18年卒業 (43回生)	(紅白組)	吉川不二子(葛西)	H15.7.22
昭和19年卒業 (44回生)	(紅白組)	春山 壽子	H16.5.15
昭和19年卒業 (44回生)	(紅白組)	酒井 智恵(岩崎)	H16.6.7
昭和20年卒業 (46回生)	(紅白組)	長南ひろ子(三苦)	H15.12.29
昭和20年卒業 (46回生)	(紅白組)	橘 康子(高橋)	H15.8
昭和補習科			
昭和15年卒業 (4回生)		佐藤 淑江(河合)	H13.11.5
竹早高校			
昭和25年卒業 (2回生)		山本 敏子	H14.10.13
昭和25年卒業 (2回生)		有賀 敏子(柗田)	H16.6
昭和26年卒業 (3回生)	(I組)	小澤 悦	H16.12
昭和30年卒業 (7回生)	(A組)	石川 昇	H16.4.8
昭和30年卒業 (7回生)	(B組)	中川 學	H16.2.17
昭和31年卒業 (8回生)	(A組)	内田 篤子(齊藤)	H15.9.28
昭和33年卒業 (10回生)	(B組)	赤沼 紀子(吉村)	H14.2.23
昭和33年卒業 (10回生)	(E組)	小泉 一雄	H16.2.6
昭和35年卒業 (12回生)	(F組)	若下 藤紀	H14.11
昭和37年卒業 (14回生)	(E組)	近藤 和子(篠原)	H16.7
昭和39年卒業 (16回生)	(E組)	玉川悠紀子(真)	H16.2.5
昭和40年卒業 (17回生)	(C組)	山田 慧子(伊崎)	
昭和40年卒業 (17回生)	(E組)	吉田 光之	H16.2.11
昭和44年卒業 (21回生)	(B組)	上島耕二郎	H16.4.3
昭和61年卒業 (38回生)	(C組)	高橋 僚子(真島)	H14.11.26

*平成17年2月28日までにご連絡をいただいたものです